

## 病院だより

## X線写真のこと

町立和寒病院 放射線科主任 菅井 大紀

病院受診時や健康診断の際、X線写真を撮ることがあります。X線写真は0.05ミリシーベルトという極微量（放射線の平常時の一般公衆の被爆量は1ミリシーベルト未満と制限されています。）のX線を体に当て組織の透過具合のちがいを画像にして見る検査です。骨は透過しにくいので写真上では白く、肺野などの空気は透過しやすいので黒く映し出されます。

当院で撮影する主な写真は次のとおりです。

【肺や心臓などをみる胸部写真】



【腸や結石などをみる腹部写真】



【骨や関節周辺などをみる骨写真】



※各写真は正常ボランティアのもの

胸部撮影では、肺野や縦隔部（主に心臓、大動脈など）に異常がないかを調べます。この検査では呼吸や身体の動きが写真に影響するのを防ぐため、また肺野をできるだけ広く見えるようにするために息を吸った状態で撮影します。

腹部撮影では、腹部領域の臓器（肝臓、腎臓など）、腸管内ガスや尿路系に異常がないかを調べます。この検査では、横隔膜を上げて腹部をできるだけ広く描出するために息を吐いた状態で撮影します。

骨写真では、骨、関節、靭帯、筋肉、脂肪組織の状態を調べます。骨折、骨変形、脱臼など異常な形状を調べるために、さまざまな方向から撮影します。

撮影されたX線写真は、電子化された画像情報として診察室のパソコンに転送され表示されます。また、撮影時のX線の出力量や写真の画質調整はコンピューターで制御、調整されており、少ないX線量で見やすい写真が撮影できる仕組みになっています。

撮影範囲内に金属等の異物があると、写真に写ってしまい診断の妨げになります。ペンダントなどは、撮影前にはずしていただくことや、厚い衣服はX線の透過を妨げることがありますので、検査着に着替えをお願いする場合があります。また、撮影方法によっては、辛い体勢をお願いする場合がありますので、ご協力をお願いします。その他わからないことや不安なことなどございましたら放射線技師へご相談ください。

## 町職員人事異動

～ 10月1日付採用 よろしくお祈いします ～

なが ひら とも こ  
**永 平 友 子**【町立病院管理栄養士】

字大成で生まれ、自然豊かな中で走り回って育ちました。以前も6年間栄養士として町立病院で働かせていただいていたので、再び故郷で勤務できることを心から嬉しく思っております。今後は恩返しも兼ねて町民の皆様の健康を守るように精一杯努めてまいります。

どうぞよろしくお祈いします。

